

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径

No.56

6月号
2013 June

今月のことば

雨垂れ
石をうがつ

小さな雨つぶでも、長い間にやがて固い石に穴を開けてしまうように、小さな努力を根気よく継続することによって、願いは必ず実現し成功するということです。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

判断力の指導と評価

- 判断するとは「選ぶ」「決める」行為です。子どもたちにこうした活動を繰り返し体験させることにより、判断力をはぐくむことができます。
- 判断には「正しさ」が求められます。ここでの「正しさ」は結果に対して問われる場合と、手続きや方法に対して問われる場合があります。

今月の記念日

気象記念日(6月1日)

日本で最初の気象台(東京気象台、今の気象庁)が東京の赤坂に設置され、気象と地震の観測が始まりました。1875年(明治8年)6月1日のことです。この日を記念して1884年に制定されました。

判断力とはどのような能力か

判断するという行為は、私たちの生活において日常的に行われています。その意味で、私たちの毎日の生活は判断の連続だと言えます。

判断力は、思考力や表現力と合わせて、子どもたちにはぐくみたい重要な能力です。判断力は知識と違って、言葉で教え伝えて育つものではありません。子ども自身が主体的に判断するという行為を繰り返し体験することによって、子どもの内面にはぐくまれていくものです。

判断するとは具体的にどのような行為なのでしょう。一つは複数ある中から目的や条件に応じて必要なものを選択することです。例えばスーパーマーケットなどで買い物する場面です。いま一つは、状況を踏まえつつ、これから先のことを決定することです。例えば日曜日に何をして過ごすか。地震がきたときどう行動するかなどがこれに当たります。判断を誤ると、生命や身体の安全に関わることがあります。

すなわち、判断するとは当事者が「選ぶこと」であり「決めること」であると言えます。判断力とは選択力であり、決定力です。もちろん両者を明確に分けられない場合もあります。

このように考えると、子どもたちの

判断力を育てるためには、授業の中で子どもに選ばせたり決めさせたりする場面を意図的に設けることが大切であることに気づきます。

これまでの授業では、教師が学習のめあてを一方向的に示したり、学習の方法を決めたりしていました。判断力を育てるためには、例えば、子ども自身に問題や課題を設定させたり、学習計画を作成させたりする活動を促すことが大切になります。これが「自ら考え、自ら判断する」行為です。

このことは、子どもたちに自由奔放に判断させることではありません。教師には当然指導の目標(ねらい)がありますから、「適切に判断できる」よう導かなければなりません。教師のかかわりや指導が重要な意味をもちます。

「正しく」判断できる子ども

評価の基本となる観点に「思考・判断・表現」があります。判断力は評価の対象にもなります。そこでは「正しく」あるいは「適切に」判断できたかどうかを評価することになります。ここでいう判断の「正しさ(適切さ)」とは、次の二つが考えられます。

一つは、判断した結果の「正しさ」です。「判断が間違った」と悔やむことがあります。結果の善し悪しを評価の対

象にする場合です。ここでは、絶対的な価値が求められます。現在、ものの見方や考え方、価値観や生き方が多様化しており、何が正しいのか、絶対的な正しさが曖昧になりつつあります。

いま一つは、結果を生み出した手続きや方法の「正しさ」を問う場合です。客観的な事実に基づいているか、科学的、合理的に見たり考えたりしているか、公正・公平に判断しているかなど、結果を導いた筋道を評価の対象にします。

判断力は、これまでの学校教育で必ずしも意図的に指導されてこなかった実態があります。判断力は「生きる力」の中核をなす重要な能力です。思考力とは明らかに性格の異なった能力です。従来「思考・判断」という評価の観点がありましたが、思考と判断を明確に区別することはほとんどなかったようです。

学習指導要領や評価の観点に「判断」という用語が登場しない教科等もありますが、すべての授業や教育活動の中で育てていきたい能力です。



運動の苦手な子ども

Q. 学級に運動やスポーツの苦手な子どもがいます。体が肥満であったり、逆に小柄な子どもであったりします。子どもは本来体を動かすことが好きだと思うのですが、こうした子どもにはどのように指導したらよいのでしょうか。

A. ひと言で「苦手」と言いますが、子どもが苦手意識をもって理由には様々な背景があります。理由や背景によって、その子どもへの指導の仕方が変わりますから、まずなぜ「苦手」なのかを把握することが大切です。

例えば、体が肥満であるために動きが俊敏にできないなど身体的な理由、かつて失敗したことによる恐怖心や自信の喪失など精神的な理由が考えられます。周りの子どもたちから冷やかされたりからかわれたりするなど、その子どもを取り巻く周囲の子どもたちにも問題があることも考えられます。

いずれの場合にも、すべて教師の指導によって解決することができます。運動は練習の仕方や努力によって好きになったり、得意になったりするものです。小さな進歩や努力の成果をみんなで見え、励まし合う学級づくりを推し進め、みんなで運動することの楽しさを味わわせます。そして少しずつ自信をつけるようにします。

運動の得手不得手はひとつの個性です。絵の上手な子ども、算数の得意な子どもなどがいるように、世の中には運動の得意な人や苦手な人もいます。それを指導することも大切です。

運動の苦手な子どもを包み込みながら学級経営を進め、学級の人間関係をよりよく醸成していきたいものです。

教育の動向

道徳の教科化

道徳の教科化の問題が再びクローズアップされています。本年2月26日、教育再生実行会議が首相に提出した「第一次提言」の中で示されたからです。

わが国の教育課程は、国語科、社会科などの教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動から編成されています。道徳は領域のひとつとされ、教科とは区別されてきました。

道徳を教科にする時の問題は、教科書教材と学習評価です。教科には、体育科(保健領域を除く)を除いて教科書があります。体育科や道徳の時間には副読本が使用されています。道徳

の教科書も教科書会社によって編集され、文部科学省によって検定されるのかどうかです。

教科では観点別評価が行われています。現在、指導要録には「行動の記録」の欄はありますが、道徳の時間に関しては数値による評価を行っていません。教科に位置づけたとき、学習評価をどのように行うのかが問題になります。道徳は、成績評価(評定)に馴染まないという指摘があります。

まだまだ不透明な部分が多いのが事実ですが、いずれにしても、道徳の教科化は道徳教育の充実をねらっているものです。今後、道徳が教科として実現するのかどうか。その場合、教科としての「道徳」の姿がどのように示されるのか、注視していきたいものです。



コラム

北先生の授業力向上術

問題解決的な学習⑧ 学習形態:ジグソー方式

学習形態には、一斉学習のほか、グループ(班)学習、個別(一人)学習など様々な形態があります。調べ学習を行うとき、グループごとに行わせることがあります。ここで問題になることはグループをどのように構成するかということです。多くの場合、生活班をそのまま流用したり、同じことを調べる子どもで構成したりしています。

ここでは、「ジグソー方式」というユニークな方法を紹介します。これはアロンソンが考案した方法で、相互学習法と言われているものです。

まず、学級全体で調べること(調べ方でもよい)を4つ(A、B、C、D)決定します。これは内容でも方法でもかまいません。次に、4人の生活班でA～Dの4つをそれぞれ調べる人

を決め、分担します。このあと、Aについて調べる子どもでグループをつくり、B、C、Dについても同じです。そして新しいグループで調べ学習を展開し、調べたことを説明できるようにまとめます。

縦軸に生活班を、横軸にA、B…の調べることをそれぞれ位置づけて、誰が何を調べるのかを整理すると、役割分担が分かりやすくなります。

まとめたことは元の班に持ち帰って説明します。各班では、A、B、C、Dについて、各グループからの情報が集まり、ジグソーパズルのように全体の姿が形づくられます。

生活班で分担し、調べたことを班に報告しなければなりませんから、子どもたちは自分の役割を自覚し、責任をもって調べるようになります。協力して学ぶ態度を育てることもできます。

INFORMATION

てのひら文庫

文部科学省後援 「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール 作品募集中!

子どもたちの小さなてのひらに載せられ、あたためられ、随所に持ち運ばれ、そして、くい入るように読破してもらいたい。

—そんな願いがこめられた読書教材です。

- 総監修
児童文学作家 石森延男
- A5判 16～28ページ
4色・1色
- 1～6年 各12冊
- 学校納入定価 1冊130円(税込)



編集後記

最近、サイクリング用GPS機器を購入しようか迷っています。道に迷えば、進路を決断し進むことも楽しみの一つです。道選びを試行錯誤しながら目的地に到達する達成感と、GPSが示したルートでムダなく到着できる快感。さて、どちらが私には良いのだろう。(T記)



企画・編集: ぶんべい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2013年6月1日